

ピースアクション in ヒロシマ参加者の感想

●大人

被爆体験を、ヒバクシャの方が命をかけて話してくださる迫力、気迫に圧倒された。つらい体験を話してくださることに感謝します。

劇や朗読や絵で、伝えていこうとされている方々、作品自体もすばらしかったし、こめられた心や気持ちひしひしと伝わりました。

<子ども平和会議>

グループワーク…学生のリーダーもいるし、事前学習の交流や、ガイドさんの話を聞くことからはじめるので、すぐに意見が出やすくなるそうです。昼食を一緒に食べたらずっと仲良くなるそうです。(昼食まではちょっと緊張していたらしい)

㊦ 他のお話、感想、考え方を聞くことで発見もあったそうです。

「戦争を全く知らなければ、また繰り返す世代が出る。伝えるには…正しいことを知らないと言えられない」

㊦ 「自分の知らないことを、事前学習の交流いろいろ聞いた。」平和にするために自分たちにできることを木の葉にして貼っていくのは分かりやすく、たのしかったようです。

帰宅後、㊦ 「伝えるって、どうすればいいの？」

劇や絵など、完成度が高いものだったので自分はそんなのできないしと思ったようです。いきなり大勢の前で話さなくていい、ヒロシマこんなのきいたよ、見たよと友達に話すとか…と話しました。お土産の再生ボールペンの由来を友達やその家族に話してきたそうです。

㊦ 8月9日、長崎の祈念式を見ていて、黙とうしようかと声をかけると、すっと姿勢を直し目を閉じました。

●子ども

- ・子ども平和会議で他のお話をきけて良かった。平和記念公園のガイドの話がきけてよかった。
- ・虹のひろばでおりづるをさいせいするのがおもしろかった。
- ・虹のひろばで書道のやつがすごかった。

●子ども

- ・それぞれに個別の歴史（原爆ドームには原爆ドームの歴史、ろ面電車にはろ面電車の歴史）があることがわかった。
- ・原爆が上空で爆発したことをはじめてしった。
- ・虹のひろばの絵がこわかった・
- ・原爆の実たいをはじめてしった。

●大人

ピースアクション in ヒロシマに、小学5年生の息子と参加して。

原爆投下時、それぞれ10歳、12歳だった80歳代の男性二人のお話を聞く機会がありました。特に印象に残っているのは、その証言する声の力強さ！です。お二人とも体はガンや心臓の病などを抱えておられますが、それを感じさせず、「生き残った者の使命として後世に伝える！」という気持ちがとても強く伝わってくる証言でした。

そして、劇は2つ鑑賞しましたが、「しげるくんのまっ黒なおべんとう」という劇では、「いってきます」と、元気に出て行った中学1年生のしげるくんが、次には、お母さんが作ってくれた大事なお弁当をおなかの下に抱えるようにして亡くなっている姿に涙しました。

広島市立沼田高等学校の演劇部による「風の電車」という劇では、男性たちが召集され、運転士や車掌らの人手不足の穴埋めに、広島電鉄家政女学校の女学生を養成し電車の運転・車掌をしていたという実話をもとに作られたものでした。使命感と誇りを持ち、学びそして働く健気な女学生の姿。その演技に引き込まれ心を打たれました。

戦争を経験していない世代の人達によるものは劇のほか朗読や絵もありましたが、いずれも子供にも分かりやすく、なにより学生達が活動している姿にとっても頼もしく感じました。

そして、今回広島では特に被爆した建物が印象に残りました。

そのうちの一つ、爆心地に最も近い小学校（410m）である本川小学校は、鉄筋コンクリートの地上3階地下1階の立派な校舎だったそうです。ですが、爆風と高熱は窓を吹き飛ばし中を焼き尽くし、丈夫な校舎でも子供たちを守ることはできなかったこと、結局400人あまりの児童が亡くなったことに衝撃を受けました。そして、この中でたった一人生き残った6年生の女の子。この子はどんな光景を見て、どんな気持ちだったのだろうと思うと胸が締め付けられるようでした。

それから、爆心地から約460mの袋町小学校では、原爆で焼けたススで黒くなった壁に、子供や家族、友人を探す伝言が数多く残されているのを見て、当時の悲痛な叫びが聞こえてきそうでした。

現在、平和記念公園は緑がいっぱいの広い公園ですが、原爆投下前にはたくさんの家や店などがあり、多くの普通の人が暮らしていた場所です。その場所で、立っているだけでも汗がふき出してくるほど暑い夏の日、さらに原爆の熱でどれだけの地獄になったのか想像しながら、私は平和祈念式典に参加しました。

ピースアクション in ヒロシマに参加した理由は、私が小学生の時は、修学旅行で広島に行き原爆ドームや資料館、被爆者の方のお話を聞く機会がありましたが、子供の通っている小中学校からは行かないからです。なので、子供が小学校高学年になったら広島に連れて行こうと以前から考えていました。

そして今年、子供は小学5年生になり、80歳代の貴重な被爆者の方のお話を聞くことができ、その他にも生協から参加することで、個人ではなかなか見ること聞くことが難しいことも経験させてもらいました。

ほとんどの人が本やテレビなどを通じ、原爆や広島知識は少なからずあると思いますが、実際に行ってみたり聞いたりすると、気づくこと感じる事が多くありました。それらを、子供と一緒に経験することで、親子で話す時間、考えてみる時間を自然と持つことができました。参加して良かったです。ありがとうございました。

●子ども

一番印象に残ったことは、袋町小学校と本川小学校です。

袋町小学校では、壁や床に、チョークで書かれた消息を伝える伝言があって、ぼくが感じたことは、みんなひっしに家族を探している風景が思いうかんで、かわいそうだなと思いました。

本川小学校では、たくさんの子どもが死んじゃったと聞いて特に地下に行くのはこわかったです。

他にも朗読と被爆の証言が印象に残りました。

被爆の証言では、瀬木さんが子どもにもわかる言葉で原爆の時の体験を話してくれました。ぼくが被爆の証言を聞いて思ったことは、原子爆弾というたった一発の爆弾でたくさんの人が一瞬のうちに死んでしまったと考えるとこわいし、そんな目にあいたくないなと思いました。

朗読では、話し方が上手だったから、戦争を体験したことがないけど実際に戦争が目の前でおこっている気分になりました。

最初に二人が交ごに、同じ文を朗読する時は、その文がとても強ちょうされていて印象にすごく残りました。

子ども平和会議では、みんなの意見を大学生が上手にまとめてくれて少しは、平和の事についてわかったと思います。

最後にみんなの前でグループでまとめたことを一人で発表した時はきんちょうしたけど、発表の練習にもなって上手に発表できたと思うので良かったです。子ども平和会議は、平和について学びいい機会だなと思いました。

ヒロシマ虹のひろばでは、子ども平和会議に出た子どもと大学生がステージに出てみんなで考えたアピール文を大学生が読む時は、ぼくが平和について取り組めた気がして少しうれしかったです。

他にも虹のひろばでは、展示コーナーや平和についてのブースがたくさんありました。その中でぼくが気に入ったのは、折り鶴の解体作業です。ぼくは、広島に行くまでは千羽鶴を折ったのでやりたくないと思ったけど、やってみるとスルスル鶴が取れて気持ちよかったし、再生紙になるので一石二鳥だなと思いました。

ぼくが広島に行って感じた事は、もしも自分が原爆に合ったらおかしくなりそうだし、後遺症で一生つらい思いをしなければならぬと思うので原爆はこわいと思いました。

後、被爆者の証言はぼくが大人になるときは聞けなくなると思うので、ぼくが大人になったら子どもに原爆や戦争について話していきたいです。